

思わず楽しめた!

大歳地区住民座談会

まちづくりの主役はあなたです!

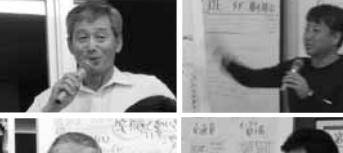
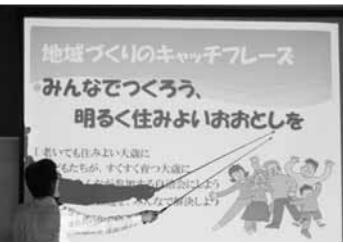
“大歳をもっと住みよいまちに”するため、大歳地区住民座談会が、2回にわたって開催されました。5月15日(木)と22日(木)に、大歳地域交流センターで、のべ約160人の皆さんのが参加され、大変な盛会となりました。

5月15日は、趣旨説明の後、「こうすればもっと大歳はよくなる」というテーマで、ワールドカフェ方式[※]で15班に分かれて話し合いました。熱のこもった意見が続出し、班ごとにまとめを発表しました。そして、次の座談会のために、5つのテーマごと（「地域振興」、「地域福祉」、「安心・安全」、「環境づくり」、「地域個性創出」）に問題点をポストイットに書き出してくるという宿題が出されました。

5月22日は、講師の船崎美智子先生の「皆さん頑張りましょう!」のかけ声に「オーッ」と答えた皆さんは、各テーマごとに12班に分かれ、意見を出しながら課題を分類、まとめました。参加された皆さんからは、「具体的な課題が発表できて、て、とてもよかった。」とか「いろいろな意見が出たけど、とにかく実行してほしい。」など口々に熱い思いが語られました。

今後はここで集まった貴重なご意見に、活動部会の皆さんの考えを合わせて「第2次地域づくり計画（平成26年～30年度）」が策定されます。これからも、この熱い思いが「みんなでつくろう、明るく住みよいおおとし」を創る土台になるのだと確信しました。

ワールドカフェ方式とは…リラックスした雰囲気の中（カフェのような）、少人数に分けたテーブルで自由な対話をを行い、ときどき他のテーブルのメンバーと対話を続けながら、参加する全員の意見や知識を集めることのできる会議手法の一つ



今井上

自主防災組織、防災委員をご紹介します！

平均年齢の高い今井上自治会なので、自主防災に関する意識も高く、昭和47年に隣接する自治会が浸水被害を受けて以降、大雨のたびに気をもんでいたところです。このたび自主防災組織を編成しようということになり、お世話をする人さえ、いれば可能であるということになりました。そこで、自治会内で一番若い山近さんに白羽の矢が当たり、1年半をかけて結成に至ったところです。

これからどういう活動をするか役員の皆さんと計画を立てて進めています。

“備えあれば 憂いなし”です。



防災委員 山近幹治さん
(今井上)

東日本大震災に学ぶ

(東北被災地交流支援事業)

大歳自治振興会では、実際に現地を見て学ぶとして、8月23日（金）～25日（日）までの間、福島県及び宮城県に大歳地区内の小学校5・6年生10名、及び保護者・防災委員・自治会長の皆さん数名で、地元の方の話を聞いたり、交流をしたりして、被災地との今後の交流や自分達の備えを考えるために、現地視察を行い、状況を調査するとともに、大歳地域の皆さんに伝える活動を行うという趣旨で本事業を展開することになりました。

[5月2日にあった「こども部会」で聞きました]

部会をやっても、メンバー全員がなかなかそろわない ⇒ 若い人が多く仕事や家事に追われている。

主な議題と意見

● 東日本大震災を見てみよう

- ・夏休み期間中に、東日本大震災のつめあとを見て地域の防災や日常生活に取り入れよう。
- ・見て来たことは、大歳地域で発表会をする。各種団体での発表も考えている。
- ・子どもの時に現地を見せるることは、将来、大歳や子ども達が住むところで生かせる。目的をもった意見の集約が行われていた。

● 現在の課題は

- ・登下校時の交通安全 ⇒ 道路事情は早急には解決できない。「見守り隊」の結成が急務である。みんなで見守りのステッカーを貼ろう。見守り隊の結成にむけて、検討委員会をおく。
- ・通学路の状況 ⇒ 狹い、交通量が多くなった造成地ができるとさらに多くなるだろう。
- ・単位子ども会は8か所しかなく、活動が年々少なくなっている。 ⇒ 子ども会入会や、今ある子ども会の活性化が必要。
- ・長期休暇時の地区内パトロールの実施強化。

石州街道 vol.2

大歳歴史の散歩道

朝田から和田に至る石州街道を歩くと、左手にこんもりとした森が見えます。山から延びた丘陵が国道9号とJR山口線で分断されたもので、「王子の森」と呼ばれています。

地名の由来は不明ですが、「大内氏の始祖琳聖太子の王子が住んでいた」との伝承が残され、享保年間に出土された「地下上申絵図」に、すでに王子の森の地名が見えます。しかし、琳聖太子の実在性には疑問があり、彼の活動の主舞台となつたとされる地から遠く離れた朝田になぜ、こうした伝承が残っているのかは不明で、様々な空想の羽根を広げさせてくれる地名となっています。

王子の森の先に「山伏さま」と呼ばれる小さなほこらがあり、大歳史談会の説明板が立っています。

す。ある大名家の家老と対立した武士が、山伏姿に身をやつして九州へ落ち延びる途中、この地で家老の差し向けた刺客に討ち果たされ「田んぼの中に首のない死体が転がっていた」と生々しい話が今も残されています。彼を追ってきた妻も悲嘆のあまり、後を追って自害したため、村人が「比翼塚」を立て、今もねんごろに弔っていると。

いつの時代の、どこの家中で起きた事件かも、当事者の名前も残されていません。もしかしたら、ご政道に係わる事件として堅く口止めされたが、死んでまで添い遂げた悲しい夫婦愛のみを顕彰することで、ご政道批判となることを避けようとした村人の智慧が残したほこらなのかもしれません。



朝田から和田に至る石州街道

王子の森

山伏さま